

事業所における自己評価結果

公表:令和8年3月20日

事業所名: 大府市発達支援センターおひさま

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点及び課題や改善すべき点など
①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	14	0	・様々な用途で利用出来るよう環境調整をしている。
②	職員の配置数は適切である	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーの職員を2名に増やし、お休みのところのフォローがしやすくなったなと思います。 ・バスの添乗職員に対しての子ども数が多い日があったり、バスの添乗等によりクラスの子どもに対する職員の配置が少なかったりする。添乗職員をある程度固定してしまうことはできないのか。 ・担任の休みがあっても各クラス職員3人配置できるように体制が整っていると思う。 ・その日の出席状況や前もって伝えていけば、体制を整えられるよう配慮しているが、難しいときもある。 ・バスに1人が乗っている時間に1人で5~6人見る状況になることがあるが、ヘルプなどで対応している ・バス添乗時のフォローや支援ポイントでのフォローを頂けていて有難い。
③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・パーテーションなどで区切って、煩雑にはならないようにしている。 ・パーテーションなどを使い、空間を分けたり、集中して取り組めたりするよう、その都度用意している。 ・必要に応じて環境を整えている。
④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、掃除を行っている。 ・今後アレルギー対応などが増え、子どもに合わせてパーテーションなど使用すると狭く、導線を工夫する必要がある。 ・療育後、必ず掃除をして清潔が保たれるようにしている。
⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの時間で、活動の改善点等を話し合っている。 ・HUGの利用についてスモールステップで進めている。
⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいた意見を会議で共有し、改善に繋げている。 ・評価表を会議で共有し、改善点を職員間で話し合っている。
⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議で話し合い共有している。
⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施。 ・今年度、第三者評価を受けている。

⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、職員から研修内容を募って、そのとき必要とされている研修を行っている。 ・職員が研修テーマを出し合い、研修を企画している。また、年間で参加する研修も組み立てられている。 ・法人内部の研修や、外部研修、職員希望による研修など様々ある。 ・学びたい事柄を精査し、決定している。
⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズから一緒に子どもの課題も割り出し、目標を共に考えている。 ・個別支援計画会議を通して、様々な視点で支援内容の検討をしている。 ・作成しているが、これからもアセスメントの技術や知識について、研鑽を続ける必要がある。
⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のアセスメントシートの項目以外のところに課題がある子どもがいる。 ・支援を考えるのにアセスメントシートを使用しているが、アセスメントシートの内容について、項目を増やす必要がある。 ・来年度、更にアセスメントの見直しが事業計画にある。 ・アセスメントシートを毎年ブラッシュアップして使用している。
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・そのときの子どもや家族に必要な目標を共に考えて設定している。 ・経験を重ねることで個別の状況に合う選択肢が増えていっていると感じる。
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を担任だけでなく、専門職や他クラス担任とも共有して支援を行っている。 ・支援計画に沿った関わりができるよう、情報共有やどのように援助を行うのか打ち合わせをしている。 ・日々の姿の書類で、達成度合いについて、姿と照らし合わせて評価している。
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年間通してどの時期にどこをねらいたいかに共有して、活動プログラムを立てている。 ・クラス内で話し合い、パートの職員からも意見をもらったり、OTに助言を求めたりしている。 ・子どもの発達に応じて決めている。

⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に 2 週間で活動内容は変えており、2 週間の間に展開している。 ・2 週間毎に活動を変え、その中でも変化を持たせるようにしている。 ・クラス間で活動の様子を共有することで、自分のクラスでのプログラムの運用にも繋げている。職員同士のコミュニケーションができていて可能になっていると思う。 ・今の子どもの姿を見て、担任間で検討しながら活動内容を考えている。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・仮にクラス内で個別活動を行うには体制が足りないと感じる。 ・子どもの状況により、組み合わせで作成している。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・前日の打ち合わせの内容からどう支援していくか等、話したことを当日の朝に再確認している。 ・どのような配置でつくのか、どのような声掛けをすれば良いのかの打ち合わせを行っている。 ・パートの職員にも事前に口頭で打ち合わせをしたり、必要に応じてメモを渡したりしている。 ・ホワイトボードで体制をみんなが見て共有できるようにしたこと、どこで何をやるのかやどこに体制に入るのかが分かりやすくなった。 ・登園前に簡単な打ち合わせ時間をとるようにはしているが、環境整備を行うと 9 時になってしまい、子どもが登園するため難しさを感じている。 ・直接行うことが難しい場合もあるが、その場合は紙面での打ち合わせにするなどして工夫している。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日最低 30 分は振り返りを行っている。 ・振り返りをもとに、今後の関わり方も検討している。 ・懇談や専門職との振り返り、外部との打ち合わせなどが続くときできないこともあるが、どうしても必要なことは合間の時間に共有して連携が取れている。 ・懇談や、バス添乗で機会が減ることもあり、改善できたら良いと感じている。 ・外部での打ち合わせが入る場合などもあるため、対面で行うことが難しい場合もある。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の姿を記録することで、子どもに今どこをねらうべきなのか、アセスメントや確認をとりながら支援している。 ・体制でポイントで入った職員が身体拘束を行ったり、目標に関わる支援を行ったりした場合、振り返りに参加できないときに記録が漏れる可能性はある。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の内容の達成度合いによっては、見直しを適宜行っている。

⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	14	0	・会議内容に応じて参加する職員を検討している。
㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	14	0	・必要に応じて保健センターなどと連絡を取り合い、情報共有をしている。
㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害者のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害者のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			
㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	0	・移行前に交流を行ったり、子どもについての特性や支援方法など引継ぎを行っている。 ・保育園交流の打ち合わせや引継ぎを対面で行い、子どもの姿や家族の状況などを伝えるようにしている。また、すくすくを引き継いでもらうようにしている。 ・引き継ぎの機会を施設側と連携して取り、書式を用いて情報共有している
㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	0	・引き継ぎおよびフォローアップを行なっているが、単発ではあるため、必要時に小学校との連携を深めていきたいと思う。 ・卒業後、元担任が小学校での過ごしを見学させて頂く機会を持っている。
㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	13	1	・必要に応じて担当者会議を開いている。 ・一部では行われているのか、全体への共有は浅いと感じる。 ・他事業所に行って研修を行ったり、研修しに来ていただいて意見をいただいたりしている。 ・交換研修にて情報を共有したり刺激をもらったりする機会を得られている。 ・五市五町研修交流会などに参加したり、福祉協会主催の研修に参加したりしている。

⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと交流する機会がある	11	3	<ul style="list-style-type: none"> ・全園児が一斉に行っている形態ではない。希望された保護者の方に対して園開放、園庭開放の情報を伝えたり、年長児交流の機会を作ったりしている。 ・保育園に移行する子どもは、その機会がある。移行しない子どもで行った経験はない。 ・園へ通う子どもが園を通して外部との交流する機会は無い。 ・移行児の交流や年長児交流がある。 ・保育園移行児や年長児の希望者が、地域の保育園へ交流する機会がある。 ・移行児の交流以外では難しさがある。 ・保育園移行前や年長児など特定ではあるが交流する機会を設けている。
㉑	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・センター長が参加している。
㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・時には個別に懇談を行っている。 ・保護者の状況によってコミュニケーションを取れるタイミングが限られる場合があるため親子通園日や連絡帳を上手く活用して連携を図っていきたい。 ・連絡帳でのやり取りや、親子活動日に子どもの状況を伝え合い、成長や課題についてお話をさせて頂いている。
㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(保護者向け講演会等)の支援を行っている	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントトレーニングではなく、親子支援として、目標に添った支援を行っている。 ・親子クラスでは、家族支援に必要なプログラムを行っているが、ペアトレは行っていない。 ・親子通園日にて保護者と姿を共有し、関わりについて一緒に考えている。 ・保護者講演会などを企画実施している。
㉔	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に説明を行っている。
㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・計画が完成した際に、計画に関する説明を行う時間を設け、支援内容や達成ラインについての説明を行い、同意を得ている。 ・個別で個別支援計画について説明をする時間を取り、共有している。
㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの発信を真摯に受け止めている。
㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は水曜日の開催を増やす予定。

③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	14	0	・相談の申し入れには、すぐに対応している。
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	14	0	・毎日、HUG にてその日の子どもの様子を個別に配信している。 ・おひさまだよりを発行したり、HUG で子どもの活動について発信したりしている。 ・毎月、おひさまだよりを発行している。
③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している	14	0	・取り扱いに注意している。
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14	0	・わかりやすく伝達できるよう配慮をしている。
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	12	2	・福祉健康フェアを通し、地域の方をはじめとする一般の方の来訪を呼びかけ、おひさまの事業の紹介など行なっている。 ・大府市主催の福祉健康フェアに毎年参加している。 ・園内行事としては大々的には行っていない。
④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	14	0	・実地訓練や研修を実施している。
④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	14	0	・月に一回避難訓練を実施している。 ・子どもも参加する訓練の種類が増えるといい。
④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	14	0	・事前に保護者と面談を行い、対応方法などについての確認を行っている。
④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	14	0	・アレルギーマニュアルを作成しており、マニュアルに基づいた対応をとっている。
④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	14	0	・日々の終礼で、事故ヒヤリについて情報の共有をしている。 ・終礼でその日あったヒヤリハットを報告し、書面にも纏めている。
④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	14	0	・権利擁護の研修を年に1度受けている。
④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	14	0	・職員会議で検討した上で、保護者の方に説明し、同意を得ている。

○この「事業所における自己評価結果」は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の職員の方に、事業所の自己評価していただくものです。「はい」か「いいえ」のどちらかに「○」を記入するとともに、「工夫している点」「課題や改善すべき点」等について記入してください。